若き日の光圀

帝キネ時代映畫

原作並脚色者　上島量
監督者　山下秀一
撮影者　池田千太郎

――主要役割――

徳川光圀　市川玉太郎
父頼房　片岡童十郎
兄頼重　藤村正雄
佐々木助右衛門　長田芳川
松並武太夫　中山介二郎
百姓治兵衛　淺野節
娘おその　望月禮子
星影源次　大野三郎
荒巻大九郎　市川海老三郎
八丁堀平造　喜多見順
婆　三桝鶴子

解説――山下秀一氏の「牡丹燈籠」に次ぐ作品である。

略筋――江戸近郷の無頼漢星影源次につけ狙らはれる土地の百姓治兵衛の娘おそのは、出くぬけに現れた若者の爲めに既に危いところを救はれ、炭燒小屋で樂しい語らひをした。この若者こそ德川光圀であつた。

光圀の兄頼重は性來の病弱、父頼房は妾腹で次男だが光圀に水戸三十五萬石を相續させたいと思つてゐた。光圀は心苦しかつた。頼重の附人松並武太夫は今度の事を光圀の輕擧として父公に申上げた爲め光圀は禁足を命じられた。

おそのはあの時の若者を慕つて泣いてゐたが決心して江戸へ行き、その香の名で左褄をとる事となつた。源次は江戸の大親分八丁堀の平造を味方につけ前にも増し執拗さでその香を追ひ廻した。再び手籠めに合はうとした時郎を飛び出した光圀が現れてその香を浚つて行つた。取らないごろつき共の追討ち防いでゐる時助勢をしたのは松並武太夫であつた。かくて武太夫の口から光圀不行跡が父頼房の耳に達した。相續取止めを惧れた從臣佐々木が切腹せんとするのを抑へた光圀、實はさうなるのを希んでゐるのだと本望を明かす、だが頼房はかへつて光圀の健氣なやり方を喜び、副將軍の劇務は温厚のみでは駄目だと敎へる。こゝに於いて光圀は飜然として父の意に從ふ事を誓つた。

一方その香を追窮するごろつきの賢手、彼等を利用して光圀を亡き者にしやうとする武太夫、謀も光圀の利劍の前には何の役にも立たなかつた。武太夫を許した光圀は、しかし自分を思つて怨んで今はいぢらしく諦めたその香の尼姿にほろりとさせられるのであつた。

寫眞――「若き日の光圀」帝キネ山下秀一作品。右より望月禮子と市川玉太郎。